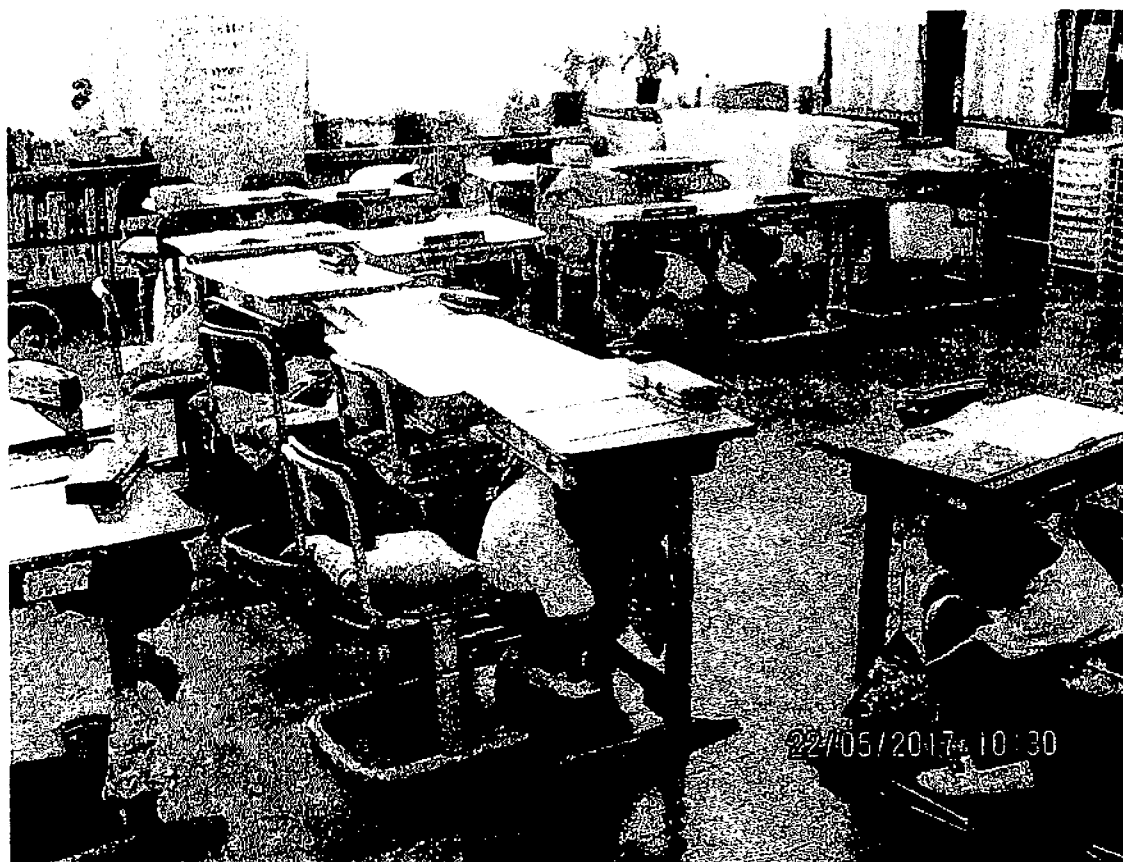


第67次
印旛地区教育研究集会
安全教育分科会



平成29年8月17日(木)

第4部会安全教育研究部
八街市立朝陽小学校 及川 直人

1. 研究主題

地震災害時、安全な避難をするための判断力の育成
～ワンポイント避難訓練の実践を通して～

2. 主題設定の理由

近年、日本では多くの地震災害が起こっている。2011年の東日本大震災や昨年では熊本地震も記憶に新しい。世界中で起こるマグニチュード6以上の地震の内、20%は日本で起きているという調査結果もある。今後も多くの地震が起きる事が予想され、30年以内には、首都直下型地震や南海トラフ巨大地震が70%の確率で起きるという統計データもあり、危機感が高まるばかりである。過去に遡ると、1995年に起きた阪神淡路大震災では、地震発生から1時間で当日死亡者の約75%にあたる3842名が死亡。その死因は7%が焼死、90%は倒壊した建物の下敷きとなった圧迫死で、さらに検案書の記録から詳しく調べると、即死を意味する圧死は8%に過ぎず、61%にあたる2116人は窒息死であった。このことから多くの方は瓦礫の下で、ある程度の時間は生きていた。震度6強で倒壊の恐れがある建物は全国に900万戸ある。この国で生活をする私たち国民は地震における災害への備えが必要不可欠なのである。

防災教育に関する国の方針として、文部科学省が提示している、学校における防災教育のねらいは、以下の通りである。

- I. 「自然災害等の現状、原因及び減災等について理解を深め、現在及び将来に直面する災害に対して、的確な思考・判断に基づく適切な意思決定や行動選択ができるようにする。」
- II. 「地震、台風の発生等に伴う危険を理解・予測し、自らの安全を確保するための行動が出来るようにするとともに、日常的な備えができるようにする。」
- III. 「自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりの重要性を認識して、学校、家庭及び地域社会の安全活動に参加・協力し、貢献できるようにする。」

文部科学省から出されているねらいのIIから、「自らの安全を確保するための行動ができるようにする。」つまり、「落ちてこない」「倒れてこない」「動いてこない」場所へ素早く避難するための判断力が重要であることがわかる。これは過去の地震災害の経験からも明白である。校舎の耐

久性を考慮すると、地震から児童・生徒の生命を守る最大の鍵は、この発生直後約1分間のとっさの避難にある。そこで、ワンポイント避難訓練を短期間で回数多く実践することで、児童・生徒が自分の命を自分で守れる「判断力」を育てていきたい。また、実際に地震災害が起きたとき、学校だけの訓練では不十分である。なぜなら、子どもが学校にいる時間よりも家庭や地域にいる時間の方が遥かに長いからである。家庭と連携した防災意識が、人々の命を救う事に繋がると考える。

3. 現在の取り組み

4部会の現状としては、学期に1度の避難訓練やワンポイント避難訓練を実施している学校が多い。本校としても、学校における様々な状況下（授業中、休み時間、給食、清掃中等）においてスモールステップで避難訓練を実践し、振り返りを行うことにより、課題が明確になると考えた。一次避難に焦点化し、指導する事で子どもたち、及び職員が的確な判断をし、自らの安全を確保するための行動に繋げようと考えている。

4. 研究仮説

実態に応じたスモールステップを踏まえて、ワンポイント避難訓練を行えば、自分の身を守る場所を判断する力が高まり、安全な場所へ一次避難することができるようになるだろう。

5. 研究内容

- (1) ワンポイント避難訓練を学校生活における様々な状況下で行うことで、自分の命は自分で守るとっさの判断力が高まる実践を行う。
- (2) 学校における安全に対する取り組みについて、保護者や地域にその様子を知ってもらう事で防災意識の連携を深めるための手立てを考え、実践を行う。

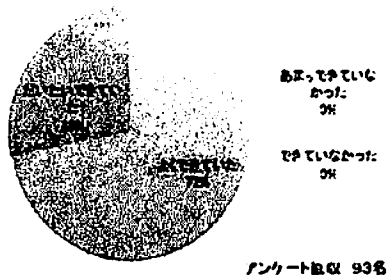
6. 八街市立朝陽小学校での取り組みについて

- (1) ワンポイント避難訓練実施計画
 - ・ ワンポイント避難訓練の計画
 - ・ 避難に向けての事前指導
 - ・ ワンポイント避難訓練の実施
 - ・ 訓練を終えての事後指導
 - ・ 訓練実施後のアンケートによる振り返り
 - ・ 反省から出た課題を職員全体で共有

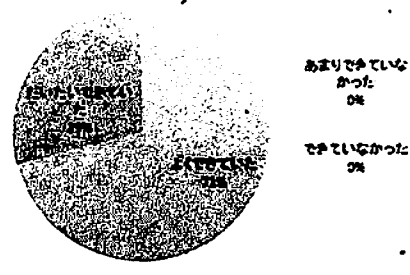
7. 訓練実施後のアンケートによる振り返り

(1) 第3回ワンポイント避難訓練 生活・防災安全委に対するアンケートより

お子さんはワンポイント避難訓練に無言で真剣に取り組んでいましたか？



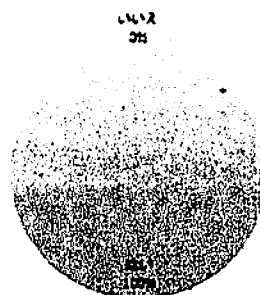
緊急地震速報を聞いて一次避難の行動を素早くとることができていましたか？



ご家庭で災害時における避難の仕方について話し合っていますか？



今後、災害時における避難の仕方についてご家庭で話し合ったり、準備をしたりしていこうと思いますか？



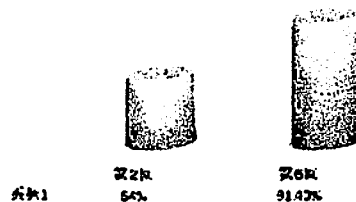
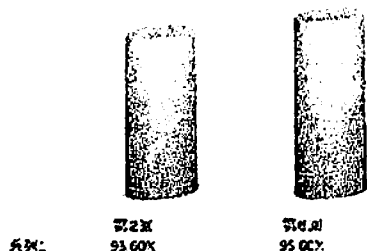
○保護者・地域アンケート（一部）

- ・ 普段見られない避難訓練の姿を見られて良かった。
- ・ 机の下にすばやく入る様子が見られてよかった，安心しました。保護者も何か手伝えたらと思いました。
- ・ 授業参観で親も一緒に訓練するのは，良かったと思います。ただ，放送を聞く，先生の指示を静かに聞くことが保護者の方ができていなかったのが残念です。

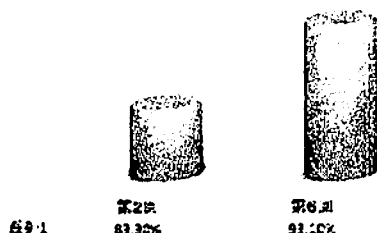
(2) 第2回, 第6回ワンポイント避難訓練 振り返りシートより

始まりの放送を聞いて, すばやく避難
する事ができた

周りにあぶないものがないかどうか,
注意する事ができた



机の下にかくれたり, 頭を手で押さえたり
して, 自分の頭を守ることができた。



始まりの放送を聞き
すばやくひなんするこ
とができてよかったです。

ろう下は、けいこうとう
やガラスがあつてきけ
んな場所です。そして、
かべにひなんしてよ
かったです。

すばやく避難することはできたけど、今度からは、周りにあぶないものがないかどうかかくにんしてすばやく避難することができればいいなと思います。

上の3つ(質問項目)のことが全部出来たので、これからも放送をちゃんと聞いて周りにもあぶない物がないかなど、これからも気をつけていきたいと思います。

8. 八街市立八街北中学校でのワンポイント避難訓練の取り組みについて

多くの児童が進学する同地域の中学校で昨年度ワンポイント避難訓練を経験した生徒の追跡調査を行った。中学1年生の生徒たちは昨年度、年間3回小学校でワンポイント避難訓練を経験している。中学校では、全く予告無しでのワンポイント避難訓練を行うことで、生徒の一次避難の意識を高めている。

中学校の避難訓練と小学校の避難訓練は同じなので、小学校でやったことをちゃんと思い出してできました。今日やったことはまだ訓練だったからいいけど、ホントに避難するときは、もっとがんばりたいです。

いきなりでなにがなんだかわからなくてあせったけど、いつもの訓練通りできた。知らされていなかった分、みんないつもより気がひきしまっていて、行動がすばやくできていたし、静かにできていたのでよかったと思う。

9. 成果と課題

○ 成果

- ・ スモールステップを踏まえたワンポイント避難訓練を行うことで、多くの児童・生徒がより安全な場所へ、児童自らが状況を判断して一次避難をするという判断力が高まった。
- ・ 学校における安全に対する取り組みを知ってもらう事で、保護者の方から、防災について家族で話し合っていきたいという多くの意見をもらい、家庭との連携を深めることができた。
- ・ 中学校でも同様に訓練を行った結果、小学校での経験を踏まえ、素早い一次避難の行動ができた。

● 課題

- ・ いかなる状況においても判断できるように、他の状況下においても、訓練が必要である。
- ・ 家庭とさらに連携をしていくためには、授業参観時に児童・生徒をただ見ってもらうだけではなく、保護者にも一緒に参加してもらうといった手立ても必要となる。
- ・ 学校の実践だけでなく、地域と連携した取り組みを行い、防災意識を共に高めていく必要がある。

ワンポイント避難訓練実施計画

1. 期日 平成29年
5月22日(月) 10時30分～(授業中)
5月29日(月) 13時00分～(昼休み)
6月10日(土) 10時52分～(授業参観直後)
6月19日(月) 13時25分～(清掃)
6月26日(月) 12時40分～(給食)
6月30日(金) 13時00分～(昼休み)

2. 目的 ○緊急地震速報を有効に使い、速やかに避難ができるようにする。
○いろいろな場面で児童が自分で危険を予測し、回避できるようにする。
(「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」場所で身を守る。)
○ 第一次避難の仕方を再確認し、緊急事態に備える。
(第一次避難のみとし、第二次避難は行わない。)
○いかなる状況においても、冷静に判断し避難できるようにする。

3. 想定 宮城県沖 マグニチュード7.4

4. 避難の主な流れと役割分担(敬省略)
○朝 混乱を避けるため、あらかじめ授業中に緊急避難訓練を行うことだけを児童に
告げ、事前指導をする。(各担任)
※昼休み、授業参観時、清掃、給食については、その日のうちに緊急避難訓練
を行うことだけを児童に告げる。
○訓練開始 緊急地震速報 CD (教頭)
「緊急地震速報です。緊急地震速報です。強い揺れに注意してください。児童
は、「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」場所に、一次避難を
してください。」
○約1分後 アナウンス(教頭)
「揺れが収まりました。揺れが収まりました。以上で、緊急避難訓練を終わりに
します。」緊急避難訓練後、教室等で事後指導を行う。

5. 指導事項
 - ・放送がなったら、行動を止め、静かにすること。(日常的に)
 - ・教頭による放送の指示と、担任の指示をよく聞き、従うこと。
 - ・「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」場所を自分で探し
身を守る。(ガラスなどの落下物がない場所や太い柱のそばなど)(自分の身は自分で守る)
 - ・第二次避難の流れの再確認。(避難経路図参照)

- ・授業中ではない時の、避難の仕方を考える。

場所別一次避難の仕方

教室	机の下にもぐり、机の脚をしっかりとつかむ。
廊下・昇降口	ものが落ちてこない場所（中央の場合が多い）へ移動する。近くの教室の机の下。
階段	あわてて上ったり、降りたりしない。壁側の手すりにつかまる。
体育館	体育館中央に集まって、特に天井からの落下物に備える。
トイレ	入口や個室のドアを開けて、逃げ道を確保する。
グラウンド	倒壊の恐れがあるものから離れ、グラウンド中央に移動する。
教室以外の場所 共通指導	上からものが落ちてこない・横からものが倒れてこない・ものが移動してこない場所にすばやく身を寄せ、姿勢を低くし、頭部を手でかばう。

6. 事後指導

- ・始まりの放送を静かに聞くことができたか。
- ・「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」場所に避難することができたか。

※学校以外の場所で地震にあってしまった場合のことも考えさせる。

7. その他

- ワンポイント避難訓練における掲示物
- 児童、保護者アンケートの実施 ※別紙参照
 - ・振り返りシートは5月29日（昼休み）、6月30日（昼休み）時の際に行う。
 - ・保護者アンケートに関しては、事前に紙面で保護者に周知し、アンケートに協力してもらう。
- ビデオ撮影について
 - ・ビデオカメラにおいて撮影（教室、廊下等）

第1回ワンポイント避難訓練について

安全部

- 期日 平成29年 6月22日(土) 18時30分(祝日)
- 目的 いつものかわからない状態に備えて、いつ、どんな場所においても、第一次避難を安全に行うことができる能力と態度を育成し、災害から自分の身を守る事ができる。
- 想定 マグニチュード7、4の地震発生(起きていることが困難になり、多くの建物で窓やガラスが破損、落下する状態)
- 避難の主な流れと役割分担(概要版)

期	本日のどこかの時間で緊急避難訓練を行うことだけを覚悟に合わせ、事前準備をする。(どの時間に行うかは任意)
訓練開始	緊急地震速報 CD (教頭) 「緊急地震速報です。緊急地震速報です。強い揺れに注意してください。災害は、 「来るとこない」「倒れてこない」「揺動してこない」場所に、一次避難をしてください。」
約1分後	アラブンス (教頭) 「揺れが収まりました。揺れが収まりました。以上で、緊急避難訓練を終わりにします。」 緊急避難訓練後、教室等で事後評価を行う。

- 事後評価
 - ワンポイント避難訓練の目的とやりか・注意事項を伝える。
 - 一次避難→避難直前に自分の身を自分で守ること
 - 緊急地震速報(地震発生時の合図)が流れたら、速やか一次避難をする。
 - 「揺れてこない」「倒れてこない」「揺動してこない」場所を自分で探し出す。(ガラスなどの落下物が無い場所や太い柱のそばなど)(自分の身は自分で守る)

【参考】揺れ止め一次避難の仕方

教室	机の下にもぐり、机の脚をしっかりとつかむ。
廊下・昇降口	ものが落ちてこない場所(中央の集合が多い)へ移動する。近くの教室の机の下。
階段	あわてて上ったり、降りたりしない。階段の手すりにつかまる。
体育館	体育館中央に集まって、特に天井からの落下物に備える。
トイレ	入り口や窓側のドアを閉めて、逃げ足を確保する。
グラウンド	倒壊の恐れがあるものから離れ、グラウンド中央に移動する。
教室以外の場所	上からのものが落ちてこない、横からのものが落ちてこない、ものが落ちてこない場所にすばやく身を寄せ、姿勢を低くし、頭部を守りながら、

- 評価
 - ① 速やか一時避難ができたか。(緊急地震速報が流れている時)
 - ② 机の下にもぐった際は、机の脚をしっかりとつかめたか。
 - ③ E分での的確な行動をした。一次避難ができたか。

7. その他
 本日は、18時30分(祝日)に実施します。第2回実施(5月29日)第3回実施(6月9日)の前、お話し致します。併せて、避難の仕方と流れについての資料をお配りしました。事故、事後評価の際、是非ご活用ください。

第2回ワンポイント避難訓練について

安全部

- 期日 平成29年 6月29日(月) 18時30分(祝日)
- 目的 いつものかわからない状態に備えて、いつ、どんな場所においても、第一次避難を安全に行うことができる能力と態度を育成し、災害から自分の身を守る事ができる。
- 想定 マグニチュード7、4の地震発生(起きていることが困難になり、多くの建物で窓やガラスが破損、落下する状態)
- 避難の主な流れと役割分担(概要版)

期	本日のどこかの時間で緊急避難訓練を行うことだけを覚悟に合わせ、事前準備をする。(どの時間に行うかは任意)
訓練開始	緊急地震速報 CD (教頭) 「緊急地震速報です。緊急地震速報です。強い揺れに注意してください。災害は、 「来るとこない」「倒れてこない」「揺動してこない」場所に、一次避難をしてください。」
約1分後	アラブンス (教頭) 「揺れが収まりました。揺れが収まりました。以上で、緊急避難訓練を終わりにします。」 緊急避難訓練後、教室等で事後評価を行う。

- 事後評価
 - ワンポイント避難訓練の目的とやりか・注意事項を伝える。
 - 一次避難→避難直前に自分の身を自分で守ること
 - 緊急地震速報(地震発生時の合図)が流れたら、速やか一次避難をする。
 - 「揺れてこない」「倒れてこない」「揺動してこない」場所を自分で探し出す。(ガラスなどの落下物が無い場所や太い柱のそばなど)(自分の身は自分で守る)

【参考】揺れ止め一次避難の仕方

教室	机の下にもぐり、机の脚をしっかりとつかむ。
廊下・昇降口	ものが落ちてこない場所(中央の集合が多い)へ移動する。近くの教室の机の下。
階段	あわてて上ったり、降りたりしない。階段の手すりにつかまる。
体育館	体育館中央に集まって、特に天井からの落下物に備える。
トイレ	入り口や窓側のドアを閉めて、逃げ足を確保する。
グラウンド	倒壊の恐れがあるものから離れ、グラウンド中央に移動する。
教室以外の場所	上からのものが落ちてこない、横からのものが落ちてこない、ものが落ちてこない場所にすばやく身を寄せ、姿勢を低くし、頭部を守りながら、

- 事後評価・評価
 - ① 速やか一時避難ができたか。(緊急地震速報が流れている時)
 - ② E分での的確な行動をした。一次避難ができたか。

第4回ワンポイント避難訓練について

安全部

- 期日 平成29年 6月10日(土) 18時30分(祝日)
- 目的 いつものかわからない状態に備えて、いつ、どんな場所においても、第一次避難を安全に行うことができる能力と態度を育成し、災害から自分の身を守る事ができる。
- 想定 マグニチュード7、4の地震発生(起きていることが困難になり、多くの建物で窓やガラスが破損、落下する状態)
- 避難の主な流れと役割分担(概要版)

期	本日のどこかの時間で緊急避難訓練を行うことだけを覚悟に合わせ、事前準備をする。(どの時間に行うかは任意)
訓練開始	緊急地震速報 CD (教頭) 「緊急地震速報です。緊急地震速報です。強い揺れに注意してください。災害は、 「来るとこない」「倒れてこない」「揺動してこない」場所に、一次避難をしてください。」
約1分後	アラブンス (教頭) 「揺れが収まりました。揺れが収まりました。以上で、緊急避難訓練を終わりにします。」 緊急避難訓練後、教室等で事後評価を行う。

- 事後評価
 - ワンポイント避難訓練の目的とやりか・注意事項を伝える。
 - 一次避難→避難直前に自分の身を自分で守ること
 - 緊急地震速報(地震発生時の合図)が流れたら、速やか一次避難をする。
 - 「揺れてこない」「倒れてこない」「揺動してこない」場所を自分で探し出す。(ガラスなどの落下物が無い場所や太い柱のそばなど)(自分の身は自分で守る)

【参考】揺れ止め一次避難の仕方

教室	机の下にもぐり、机の脚をしっかりとつかむ。
廊下・昇降口	ものが落ちてこない場所(中央の集合が多い)へ移動する。近くの教室の机の下。
階段	あわてて上ったり、降りたりしない。階段の手すりにつかまる。
トイレ	入り口や窓側のドアを閉めて、逃げ足を確保する。
教室以外の場所	上からのものが落ちてこない、横からのものが落ちてこない、ものが落ちてこない場所にすばやく身を寄せ、姿勢を低くし、頭部を守りながら、

- 事後評価・評価
 - ① 速やか一時避難ができたか。(緊急地震速報が流れている時)
 - ② E分での的確な行動をした。一次避難ができたか。

本日の実施では、保護者がアンケートをお記入していただきます。(別紙) 毎学期に使う多目的室等にアンケート用紙を置き、その場で記入していただくように取り付けて下さい。(お配りするように設置費を改めてお知らせいたします) 併せてお配りした資料は是非ご活用ください。

- ① 避難訓練の目的を説明する。
- ② 避難訓練の目的を説明する。
- ③ 避難訓練の目的を説明する。

④	避難訓練の目的を説明する。
⑤	避難訓練の目的を説明する。
⑥	避難訓練の目的を説明する。

- ⑦ 避難訓練の目的を説明する。
- ⑧ 避難訓練の目的を説明する。
- ⑨ 避難訓練の目的を説明する。

【表2】 避難訓練の目的	避難訓練の目的を説明する。
【表3】 避難訓練の目的	避難訓練の目的を説明する。

- ⑩ 避難訓練の目的を説明する。
- ⑪ 避難訓練の目的を説明する。

- ⑫ 避難訓練の目的を説明する。
- ⑬ 避難訓練の目的を説明する。
- ⑭ 避難訓練の目的を説明する。

⑮	避難訓練の目的を説明する。
⑯	避難訓練の目的を説明する。
⑰	避難訓練の目的を説明する。

- ⑱ 避難訓練の目的を説明する。
- ⑲ 避難訓練の目的を説明する。
- ⑳ 避難訓練の目的を説明する。

【表4】 避難訓練の目的	避難訓練の目的を説明する。
【表5】 避難訓練の目的	避難訓練の目的を説明する。

- ㉑ 避難訓練の目的を説明する。
- ㉒ 避難訓練の目的を説明する。

資料3 第5回ワンポイント避難訓練（給食時） 事前指導資料

6. 給食時間中……火傷しないように注意し、机の下に隠る

予想される危険

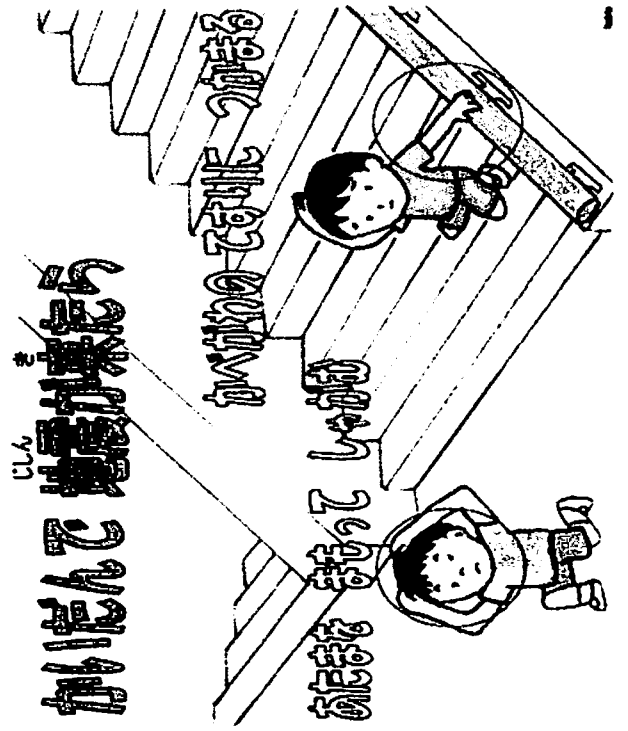
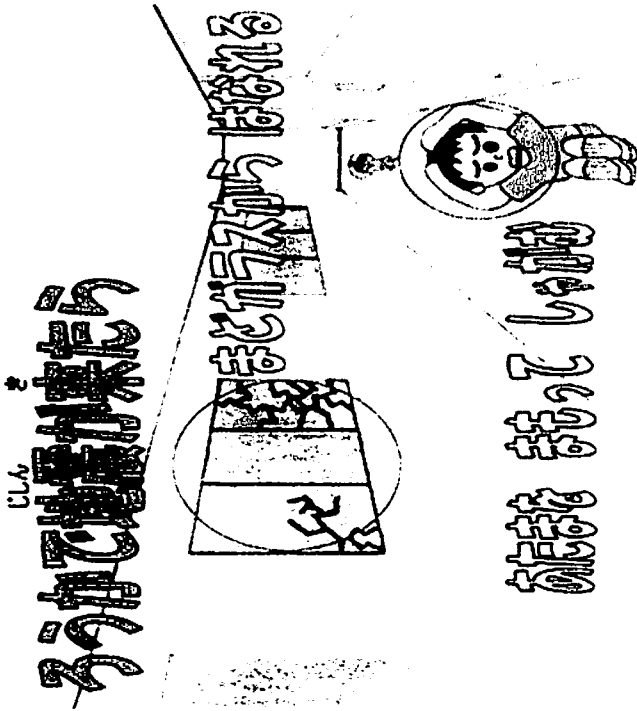
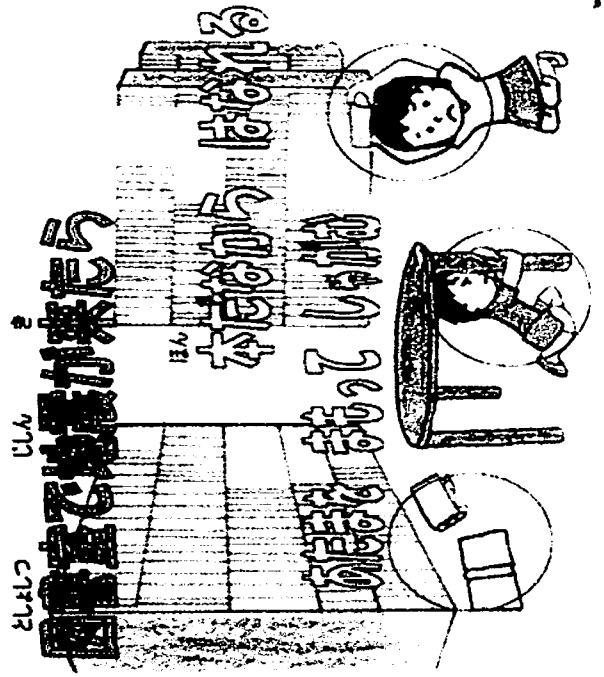
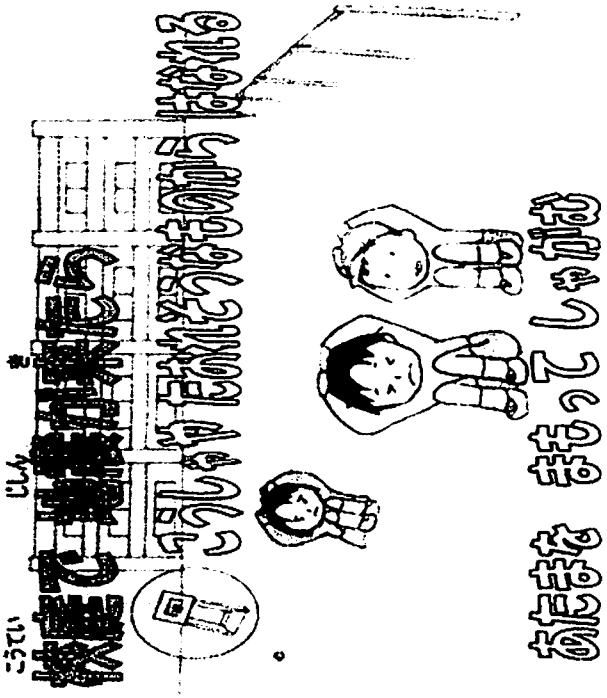
- ① 学校給食の時間帯における児童生徒等の行動は、食事にもなるものの、給食の準備・後始末のためのワゴンの運搬等多様である。また、給食の形態や方法も多岐にわたることから混乱が予想される。
- ② 重い物や熱い物を運搬中、又は熱い物を配膳中にけがや火傷をすることがある。また、机上の牛乳瓶の破損でのけがも考えられる。
- ③ 火を使用している調理室では、火災などの二次被害が予想される。

地震発生時における児童生徒等の望ましい安全行動

	当番の児童生徒	当番でない児童生徒
教室	○配膳している時は、食器皿等を机に置き、すぐ机の下に隠る。 ○特に、熱いスープ等の入った食缶等の転倒による火傷には十分注意しなければならない。以下、震度教室での対応に準じた行動とする。	○机や食缶が倒れた、けがや火傷をした場合は、机の下に隠る。火傷が起った場合は、机の下に隠る。火傷が起った場合は、机の下に隠る。
食堂	○ワゴンや食缶等の運搬中は、その場に置き、隣りに近くの児童生徒を助けるか、机からできるだけ距離を確保して揺れが収まるのを待つ。その際には食缶等の転倒による火傷には十分注意する。	○近くの児童生徒を助けるなど、震度調理室での対応に準じた行動とする。
廊下	○調理室前にいた場合は、学校教職員や調理従事員などの指示に従う。	

地震発生時における教師の望ましい対応（震度）

- ① 教室での教師は、自分のクラスの児童生徒を止める。廊下などの通路にいる児童生徒等への指示やワゴンの運搬を止める。児童生徒等の安全確保に努める。
- ② 避難誘導に際して、教師と学校教職員や調理従事員など所管業務担当の共通避難経路についておく。



資料5

6月10日(土)3校時終了後ワンプイント避難訓練を行います。
実施後、アンケートのご協力をお願いいたします。

生活・防災安全に関するアンケート

1. 本日のワンプイント避難訓練において「さんの様子」についてお答えください。

(1) お子さんにはワンプイント避難訓練に専らで真剣に取り組んでいましたか?

よくできていた	だいたいできていた	あまりできていなかった	できていなかった
---------	-----------	-------------	----------

(2) 緊急避難信号を聞いて一時避難の行動を真似て取る事ができていましたか?

よくできていた	だいたいできていた	あまりできていなかった	できていなかった
---------	-----------	-------------	----------

2. ご家庭で災害時における避難の仕方について話し合っていますか?

はい	いいえ
----	-----

3. 2の質問で「はい」と答えた方にお返します。

今後、災害時における避難の仕方についてご家庭で話し合ったり、準備をしたりして、こうと定めますか?

はい	いいえ
----	-----

4. 授業準備時におけるワンプイント避難訓練に対してのご感想がありましたら、お書きください。

ひなんくんれん ふりかえりシート

たん くみ なまき

① くんれんのほうそうがあったとき、どこにいましたか?

② よくできたとおもものほつをつけましょう。

はじめのほうそうをきいて、すばやくひなんすることができた。	
まわりにあぶないものがないかどうか、ちゅういすることができた。	
机の下にかくれたり、額を手でおおえたりして、自分の顔をまもることができた。	

③ はかにも気づけたことやできたことがあれば書きましょう。

④ 今日のひなんくんれんのかんそうを書きましょう。

避難訓練 振り返りシート

年 組 名前 ()

① 避難の放送があった時、どこにいましたか?

② その場所の周りに「地震が来たときにあぶないな」と思うものはありましたか?

はい いいえ

「はい」と答えた人へ、それはどんなものでしたか。

③ 避難の時によくできたと思うものほつをつけましょう。

はじめの放送を聞いて、すばやく避難することができた。	
周りにあぶないものがないかどうか、注意することができた。	
机の下にかくれたり、額を手でおおえたりして、自分の顔をまもることができた。	

④ 上の3つのほつにも、気づけたことやできたことがあれば書きましょう。

⑤ 今日の避難訓練の感想を書きましょう。

第1回ワンプイント避難訓練 反省用紙

本日のワンプイント避難訓練では、ご協力ありがとうございました。
より早く、より安全に避難できるように、今回のワンプイント避難訓練を終えて
先生方のご意見をいただきたいと思ひます。

内容について（児童の様子、実施方法など、何でも構いません。）

ご意見や改善点などをご記入の上、6月26日(金)運動時までに
職員室 及川 様上までよろしくお願ひします。

第1回ワンポイント避難訓練 反省のまとめ

- 放送を聞いて取っている児童が多かったです。(多数)
- 前にすばやく戻ってきていない児童がいたので指導した。
- この訓練によって、いざという時取られるのがたくさんなると感じました。
- 資料を扉裏と裏に挟んであげると、子どもたちは真向な目で聞いていました。体験者の作文などがあるより効果的かと思いました。
- 私を助けてつかんでいない児童がいた。
- 外に出ることがなかったので、放送で訓練場りの内容が読れると一安心のようで良かったです。
- 訓練開始の放送時に「訓練、訓練です、正しい復讐に注意してください。」と「訓練、の言葉を入れた方が良かったと感じました。CDの効果はあったと思います。

先立の事前・事後指導のおかげで効果的な訓練が行えました。また、資料を使って事後指導を行ったと報告の方から感謝を頂きました。ありがとうございます。今回の取り組みとして、「緊急地震速報を聞き、いつ、どんな場所においても冷静に早く判断し、避難できるようにすること」を重視している中で、緊急地震速報から訓練が始まるまで次もやりたいと思います。
反省のご協力ありがとうございました。次回以降も引き続きよろしくお願いいたします。

第2回ワンポイント避難訓練 反省のまとめ

- 教室や廊下に残っていた児童は特にかささと机の下に隠れる事ができました。(同内容多数)
- 教員がいたこともあってか、急早く真剣に取り組んでいた。ワークシートでは証学年に声をかけた児童もいたようで、高学年らしいふるまいもできていたようだった。
- 慣性が働くと同時にどの子ども対応行動がとれており、急激な動きを感じました。場所別の対応行動を指示した資料も効果的でした。
- 初めての体験での避難行動で下が、スムーズにできました。子どもたちからは、「びっくりした」「こわかった」との声でした。
- 避難した後(揺れがおさまった後の放送がかかるまで)に、やはり気がゆるんでしまう様子。
- 屋外での訓練ということもあり、集中力が欠ける部分があった。子どもたちの反省の中にも、「ふざけている人がいた」や「しゃべっている人がいる」などの意見があった。
- 放送を聞いてすぐにグラウンド中央に集まる事ができていました。しかし、おしゃべりが多く、音楽が通らなかつたので音を鳴らしました。特に1年生が騒がしくなり、それをも先生が一生懸命ながめていてその声でざわざわしたのだと思います。
- グラウンドの児童がキヤーとうかれていたのが気になりました。無言で動く「移動」を徹底したいです。
- 屋外には気を配りに出しているのでも、もし教室にたくさん子どもがいたら、どう指導したものか…とふと悩みました。

先立の事前・事後指導のおかげで子どもたちの意識も高まり、効果的な訓練が行えました。今回は屋外での実施でしたが、体育館や保健室など教室以外の場所でも迅速に避難ができていたという意見が多数聞かれました。一方、グラウンドでは、ざわざわした感じもあったようです。また、一部の教室で音声が聞こえない等の事もありましたので、次回の訓練に生かしていきたいです。次回は6月10日、授業参観時になります。「落ち着かない・倒れてこない・移動してこない」場所に自分たちで考えて行動できる事が目標です。
反省のご協力ありがとうございました。次回以降も引き続きよろしくお願いいたします。

第3回ワンポイント避難訓練 反省のまとめ

- 児童は急早く避難することができていた。(同内容多数)「突然」だと自主的に助けるのがよく見て良いと思います。子供たちの意識も以前より高まり、対応する時間が短くなっている。
- 多目的室から教室への移動の途中でした。階段での訓練になりました。クラスでまとまっていたので場所がいつもと違って比較的落ち着いていたように思います。
- 保護者の方にも見ていただけでよかった。
- 保護者は一瞬驚いていたが、訓練後説明を説明すると、とても感心した様子で話を聞いてくれた。家庭でもこのような訓練について考えてもらえる良い機会であったのではないかなと思う。
- 授業参観のせい、少しおしゃべりが多かった。(同内容多数)
- 保護者が立ったまま寝ていたのが気になりました。(ざわづわしていた)保護者も一緒にやるのが望ましいかなと思いました。
- 保護者に見てもらおう目的や防災意識を高める目的としてはクリア、観も一緒に訓練に参加することが目的なら(事前に保護者など)手立てや準備等、考える必要があるかもしれません。
- 保護者は初めてだったのか、あまり理解していない様子だった。
- 訓練時に「何をすべきか、どうすればいいか」を明確し、実行することで身につけていくのでは・・・
- ★ そうじを始めるタイミングだったので、机とイスを教室前方に出していました。その状態で机のしたに入るのが防がなかったので、扉だけは必ず入れるよう声をかけました。この場合は、どのような一時避難が最良なのでしょう？
- まずは「落ち着かない、倒れてこない、動いてこない」場所への避難なので、机に頭を入れる声かけが合っているかと思います。あとは、柱の近く等に身を寄りながらしゃがむ等になります。

授業参観という忙しい時間にも関わらずご協力いただきありがとうございました。
先立の事前・事後指導のおかげで一次避難がかなり早くできるようになっています。今回の実施で、今まで災害時の避難の仕方について話した事がなかったが、今後話し合ったり、準備したりしていきたいという保護者の意見が多くありました。見ていた保護者にとっても良い機会になったようです。高学年に保護者からの指導がありますので是非お預め下さい。
反省のご協力ありがとうございました。次回以降も引き続きよろしくお願いいたします。

第4回ワンポイント避難訓練 反省のまとめ

- すばやく一次避難を行うことができた。戸締り友達に対して、声をかけている様子も見られました。回数を重ねるごとに意識が高まっていることを感じた(同内容多数)
- 反省時に、自分が見ていないところにいた子が、「そこガラスあるよって注意を(子ども同士)でできた」と言っていてよかったと思いました。
- 何度も行っているためか、慣れが出てきた。にやにやしたり、話したりする姿が見えているので注意していきたい。
- 外(グラウンド)に集まっている子たちがいつまでも静かにならず、気持が浮いている様子が見られた。緊張感をさらに持たせたい。
- 電鈴のすぐそばでしゃがんでいた児童が多数、くつが飛び出したり、靴輪がたおれたりすることもあるということを指導した。
- 多目的室はイスや机が重なっているため、かくれる場所がなくあぶないなと思いました。セライトコートでの1次避難の方法は、「ライトコートの真ん中に集まって身を守る」で良いでしょうか。
- 一回方がガラスになるので、「ライトコートの真ん中」に集まって身を守るが最良の避難かと思えます。

今回も事前・事後指導等ご協力いただきありがとうございました。
避難期間で避難後の実施により、子どもたちの一次避難に対する意識の向上、また避難における判断の速さ、行動の速さが良くなっているというご意見を多数いただきました。ガラスの有無の判断や物が「動いてこない」場所に避難をするだけでなく、子ども同士で声を掛け合えるというのは素晴らしいと思います。一方で、慣れが出てきてしまっているという意見もあります。事後指導で改めて取り組む目的等、伝えていただければと思います。
次回は、給食時での訓練になります。12:40なので、給食を食べてから10分程度です。詳細同様、子どもたち自身が考え、判断し、行動出来ればと思います。
反省のご協力ありがとうございました。次回以降も引き続きよろしくお願いいたします。

第5回ワンポイント避難訓練 反省のまとめ

- おしゃべりもなく落ち着いてできました。回数を重ねる良さが出ていたと感じました。(同意見多数)
- 片付けの途中だったが、机の下にしっかりかくれることができました。
- どの子も真剣に取り組めていました。配膳時だったらどうしたらいいかな、とクラス皆で同じ給食でもいろんな時間について考える事もでき、勉強になりました。
- 慣れもあってか机の下にかくれた後におしゃべりしてしまう児童が少なからずいます。(同内容4名)
- ★ ライトコートで清掃をしている子がいたときは、及腰か、かがやきの教室に誘導しても良いでしょうか。一田方がガラスという状況ですので、移動できるのであれば教室に素早く移動するという判断も良いと思います。

第6回ワンポイント避難訓練 反省のまとめ

- 早く机の下に入り、机の下で静かに待てるようになっていた。ずいぶん進んでいる。同意見多数
- 静かに机の下で待てる。ワンポイント避難訓練がはじまったので、机の下で待てるのが上手にできていました。
- スラージの上で練習していたのですが、子どもたちが向き直らなくて体育館の真ん中に落ちていました。急早い移動と行動が急増しました。
- 急増が感じられてとても良かったです。おしゃべりも少なくなりました。一番今までで良いと思います。急増したことを生かしているように感じました。
- 急増するすばやく机の下に入りました。おしゃべりはほとんどなく、急増がすごかったです。
- 机の下にすばやく入るもの。まだしゃがんでいるだけで静かに待てない人。完全に急増してしまっている人。ボールをつけて進んでいる人など、急増に気づきました。また、急増の急増が急増するすばやく急増の。急増まで急増を急増して急増しました。

机の下にかくれたり、急増して静かに待てるようになって、自分の急増することができた。急増にあふれないものがないかどうか注意することができた。



急増の急増を聞いて、すばやく急増することができた。



ワークシートの結果、2区目の方が3項目とも数値が高くなりました。自由記述の中にも、「ろう下は、けいこうとうやガラスがあつてきけんな場所です、そして、かべにひなんしてよかつたです。」(4年児童)といった判断もついで来たようです。

事前・事後指導等ご協力いただきありがとうございました。
給食時ということでしたが、おしゃべりもなく、素早く一次避難できているという意見がほとんどでした。また、配膳時における避難においても事後指導いただき、今後起こりうる地震の備えができたかと思えます。
第6回避難訓練では、教師の目の届きにくい場所、時間である「昼休み」になります。
第2回の「昼休み」での避難訓練では、おしゃべりする児童がいたり、避難する場所の判断が出来ていなかったりしました。今回の実施で1学期最後のワンポイント避難訓練になります。地震災害時、一次避難によって自分の命を自分で守るという意識のもと、訓練に臨んでもらえればと思います。また、事後指導において、書き添りシートを是非ご活用下さい。
お忙しい中、ご協力感謝いたします。第6回ワンポイント避難訓練よろしくお願い致します。

6区目は昼休みという、状況に応じた個々の判断力が必要な場面となりましたが、前回の昼休み時の訓練よりも多く出動していた児童が多かったようです。昼休みの児童も、「着てこない、動いてこない、倒れてこない」場数を考え、机の下に机を抱えて避難するなど、自分の判断で動いている子を多数見ました。ただ、教室においては、おしゃべりがあるなど、まだまだ改善できる点が多いようです。今後の訓練に生かしていければと思います。
食6回になり、ワンポイント避難訓練へのご協力ありがとうございました！

資料7 他校でのワンポイント避難訓練① (プール開き時)

6月 ワンポイント地震発生時避難訓練 (プール開き時)

実施日時: 6月11日(水) 11:10~11:22

実施場所: プール

学年/時間	実施時間	実施内容
高学年(芝罘) 低学年(白島) 分校(竹内)	11:10	避難始動、避難始動、ビー。(ホイッスル) 強い地震が発生しました。先生の指示に従って、 速やかに避難してください。の連絡。
高学年(芝罘) 低学年(白島) 分校(竹内)	11:11	避難始動 プールサイドに避難する際は、プールサイドの柵や 手すりなどにぶつからないよう注意し、速やかに プールサイドに避難してください。
高学年(芝罘) 低学年(白島) 分校(竹内)	11:12	避難完了 プールサイドに避難した後は、先生の指示に従って、 プールサイドの柵や手すりなどにぶつからないよう 注意し、速やかに避難してください。

始まりの放送を聞いて、素早く避難することができた



100%

プールサイドにつかまったり、頭を手で押さえたりして、自分の頭を守る事ができた。



100%

周りにはぶないものがないかどうか、注意することができた。



85.9%

ワンポイント避難訓練 振り返りシート

①放送の放送があった時、どこにいましたか。

プールの中、プールサイド

②その場での動きは「地震が発生したときにあぶないな」と思うものはありましたか。

はい

はいと答えた人へ、それはどんなものでしたか。

- ・ジャンプ
- ・ジャンプ

③避難の時によくできたと思うものに○をつけましょう。

始まりの放送を聞いて、素早く避難することができた。	172/ 172人
周りにはぶないものがないかどうか、注意することができた。	147/ 172人
プールサイドにつかまったり、頭を手で押さえたりして、自分の頭を守ることにできた。	152/ 172人

④上記3つの項目にも、気づけなかった事やできたことがあれば書きましょう。

- ・すぐにプールサイドに出かけた。・速やかに歩いて移動した。
- ・人をはつかないよう注意した。・使えないうちがけがなかった。
- ・自分自身でぶつかって怪我をしないように注意した。

⑤今日の避難訓練の感想を書きましょう。

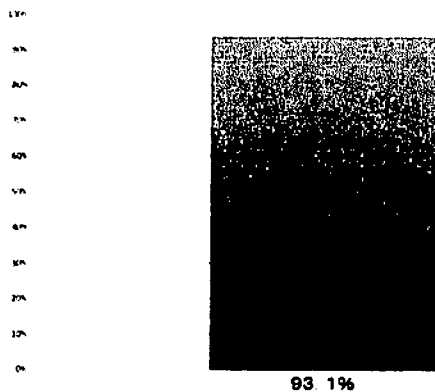
- ・実際にプールの中で動いたら、ちゃんと避難できるね。
- ・プールの中では歩きにくい。プールサイドに寄りかかるといいね。
- ・いざという時に備えておきたいね。早く避難して避難できた。
- ・音がなかったり、人がたくさんいてして、身動きがすぐにはとれない。

資料8 他校でのワンポイント避難訓練②

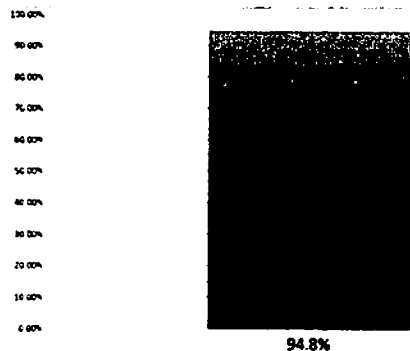
八街北小学校 平成29年9月 避難訓練指導計画
平成29年4月 災害時

日	内容
4	○避難訓練：地震
5	○ワンポイント避難訓練：地震（一時避難のみ） ○地域防災訓練
8	○ワンポイント避難訓練：不審者（一時避難のみ）
7	○ワンポイント避難訓練：火災
8	○避難訓練：地震→火災 消防火屋
14	○ワンポイント避難訓練：地震
15	○ワンポイント避難訓練：地震
16	○ワンポイント避難訓練：不審者 避難委員会主催（30分 避難訓練）

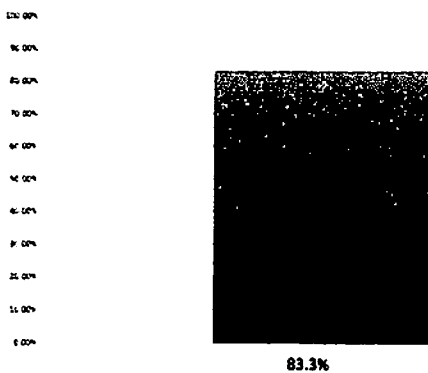
始まりの放送を聞いて、すばやく避難する事ができた



机の下にかくれたり、頭を手で押さえたりして、自分の頭を守ることができた。



周りにおぶないものがないかどうか、注意する事ができた



ワンポイント避難訓練 振り返りシート

①訓練の放送があった時、どこにいましたか。

教室 グラウンド F校舎 階段 特別教室 配下 職員室

②その場子の隣りに 地震が来たときにおぶないな、と思うものがありましたか。
はい いいえ

「はい」と答えた人へ それはどんなものでしたか。

窓ガラス テレビ 蛍光灯 エ 図画帳 等の上の物 資料の交換袋 袋物
(窓ガラスと蛍光灯が多かったです)

③訓練の時によくできたと思うものについて書きましょう。

始まりの放送を聞いて、すばやく避難することができた。	25/27人
周りにおぶないものがないかどうか、注意することができた。	23/27人
机の下にかくれたり、頭を手で押さえたりして、自分の頭を守ることができた。	25/27人

④上の3つの紙にも、気づいた事やできたことがあれば書きましょう。

前がにきた、みんなに教えてあげた、振り回して避難できた
近くの教室にすぐ逃げた、近くの友達の手を引けることができた、放送を聞くことができた
近所から離れた、手を机の下にさきないようにした、おぶないものがないか確認した
ガラスに手を白けた

⑤今日の避難訓練の感想を書きましょう。

いきなり放送が入って驚いた、自分の場所がわかった、逃げた。
いつも通りできた、緊急地震速報の音響が聞こえたから、すばやく避難した。
緊急地震速報の音響が怖かった。

資料9 他校でのワンポイント避難訓練③

ワンポイント避難訓練全体計画について

平成29年4月3日

大田区立上野台小学校
5年5組(40名)

1 ワンポイント避難訓練と全体計画の目的

目的	1. 避難訓練の重要性を認識し、避難訓練に参加する意欲を高める。 2. 避難訓練の目的を認識し、避難訓練に参加する意欲を高める。 3. 避難訓練の目的を認識し、避難訓練に参加する意欲を高める。
内容	1. 避難訓練の重要性を認識し、避難訓練に参加する意欲を高める。 2. 避難訓練の目的を認識し、避難訓練に参加する意欲を高める。 3. 避難訓練の目的を認識し、避難訓練に参加する意欲を高める。
方法	1. 避難訓練の重要性を認識し、避難訓練に参加する意欲を高める。 2. 避難訓練の目的を認識し、避難訓練に参加する意欲を高める。 3. 避難訓練の目的を認識し、避難訓練に参加する意欲を高める。
評価	1. 避難訓練の重要性を認識し、避難訓練に参加する意欲を高める。 2. 避難訓練の目的を認識し、避難訓練に参加する意欲を高める。 3. 避難訓練の目的を認識し、避難訓練に参加する意欲を高める。

(2) それぞれの災害に応じた安全知識、安全行動をすることができ、(図は)

地震	机や机の下、出入り口や窓を避けたり、カーテンを閉めたりする。
火災	避難経路を確認し、避難経路をたどる。(近くに消火器があれば使用する。) 火災発生時に逃げ遅れずに避難できる。 消火器は、消火器を持って、消火活動をする。
台風	窓やカーテンは閉める。 家具が倒壊したことを確認したら、出入り口を確保する。 近くに消火器があれば使用する。
水害	水が浸水した場合は、水が浸水した場所から避難する。 水が浸水した場合は、水が浸水した場所から避難する。

始まりの放送を聞いて、すばやく避難
する事ができた



周りにあぶないものがないかどうか、
注意する事ができた



4. 避難訓練の事後評価

- (1)避難中、機の下、机の下、机の下に隠れる子供の状況を観察する。
- (2)避難中は、机の下に隠れる子供の状況を観察する。
- (3)避難の先生以外は、以下の「休み時間、放課、登校時」の分岐で実施する。

休み時間、放課、登校時

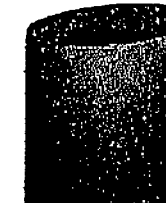
○1階	科見の机1 1-1の机1	○21階 体育館 南校舎と北校舎の間	放課後 5-2の先生 6-2の先生
○2階	音楽科の机1 ハミゾの机1	○22階	3-1の先生 4-1の先生
○3階	美術科の机1 3-2の机1 4-2の机1	○23階	2-1の先生 0-1の先生
○4階の広場 ロータリー 廊	2-1の机1 2-2の机1	○全体	安全責任

5. 事後評価

(1)階級による避難の仕方

避難場所	器具が倒れそうな物から離れて、しゃがむ。できれば机の下へ
避難の広場・トロロの機 ロータリー	机の下を避け、ロータリーでしゃがむ。
廊下	中央でしゃがむ。
機下	机の端を避ける。ドア中央を避ける。机の下に隠れる。机の下に隠れる。
廊下・階段・トイレ	机の端を避ける。机の端を避ける。机の下に隠れる。机の下に隠れる。
昇降機	机の下を避け、しゃがむ。机の下に隠れる。机の下に隠れる。
避難経路 校舎と校舎の間	避難経路を確認し、避難経路をたどる。避難経路を確認し、避難経路をたどる。

机の下にかくれたり、頭を手で押さえたり
して、自分の頭を守ることができた。



参考・引用文献

「学校防災のための参考資料「生きる力」を育む防災教育の展開」(文部科学省, 2014)

「まもるいのち ひろめるぼうさい」(日本赤十字社, 2015)

「ワンポイント避難訓練 指導マニュアル」(南房総教育事務所指導室, 2009)

「学校の防災教育・防災管理」鎌倉女子大学」(矢崎良明, 2017)

「地球の声に耳をすませて 地震の正体を知り, 命を守る」(大木聖子, 2011)

「地震観測データから見た熊本地震」

http://www.bosai.go.jp/event/2016/pdf/20160424_aoi.pdf

「もしものとき.com」

<https://moshimonotoki.com/item1341/>

「国土交通省 気象庁 東海地震について」

<http://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/tokai/index.html#contenthead>

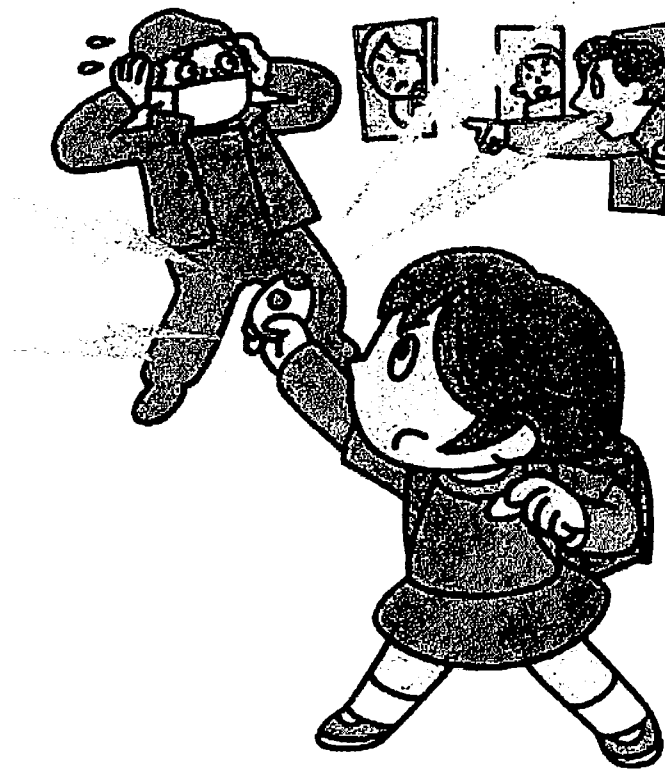
「東日本大震災の記録」

<http://memory.ever.jp/tsunami/index.html>

平成29年度 第67次 印旛地区教育研究集会
安全教育分科会

研究主題

子どもの安全意識「自分の命は自分で守る」を高め、行動化させるには
どのように指導したらよいか。 —防犯教育を通して—



第1部会安全教育研究部

佐倉市立間野台小学校 工藤 潤

1 研究主題

子どもの安全意識「自分の命は自分で守る」を高め、行動化させるにはどのように指導したらよいか。
—防犯教育を通して—

2 主題設定の理由

(1) 地域社会の現状から

まだ、記憶には新しいと思うが、H29年5月に我孫子市で登校途中の小学校女子児童が連れ去られ、殺害されるという痛ましい事件が起きた。本校のある臼井地区は、京成臼井駅を中心に商業地区、住宅密集地区が形成されており、交通の便もよい地区なのだが、佐倉市の中でも不審者情報が多い地区でもある。昨年からの不審者情報（アイアイ情報）で、最新の案件の13件中6件が臼井地区の情報である。このような地域社会の現状から、不審者に対する正しい対応の仕方について児童が身に付ける必要があると言える。

(2) 学習指導要領から

学習指導要領では、安全に関する指導は、総則「教育課程編成の一般方針」や特別活動（学級活動・学校行事）の中に以下のように位置付けられている。

① 総則「教育課程編成の一般方針」

小学校学習指導要領総則編 第1章第1の3 体育・健康に関する指導

学校における体育・健康に関する指導は、児童の発達の段階に考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行うものとする。特に、学校における食育の推進並びに体力の向上に関する指導、安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導については、体育科の時間はもとより、家庭科、特別活動などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努めることとする。また、それらの指導を通して、家庭や地域社会との連携を図りながら、日常生活において適切な体育・健康に関する活動の実践を促し、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎が培われるように配慮しなければならない。

安全に関する指導においては、身の回りの生活安全、交通安全、災害安全に関する指導を重視し、安全に関する情報を正しく判断し、安全のための行動に結び付けるようにすることが重要である。指導においては、関連教科や道徳、特別活動のほか、総合的な学習の時間なども含めた学校の教育活動全体を通じて行うことによって、その充実を図るとされている。

② 特別活動（学級活動・学校行事）

〔学級活動〕（２）日常生活や学習への適応及び健康安全

カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

防犯を含めた身の回りの安全、交通安全、防災など、自分や他の生命を尊重し、危険を予測し、事前に備えるなど日常生活を安全に保つために必要な事柄を理解し、進んできまりを守り、危険を回避し、安全に行動できる能力や態度を育成するなどの内容が考えられる。

〔学校行事〕（３）健康安全・体育的行事

ア 健康安全・体育的行事のねらいと内容

児童自らが自己の発育や健康状態について関心をもち、心身の健康の保持増進に努めるとともに、身の回りの危険を予測・回避し、安全な生活に対する理解を深め、さらに、体育的な集団活動を通じて、心身ともに健全な生活の実践に必要な習慣や態度を育成する。

イ 実施上の留意点

（イ）避難訓練など安全に関する行事については、表面的、形式的な指導に終わることなく、具体的な場面を想定するなど適切に行うことが必要である。

（３）学校教育目標から

本校の教育目標は、『心豊かで、進んで学ぶ、心身ともにたくましく生きる子どもの育成』である。それを実現すべく具体的な方策「健康・安全教育の推進」の中に〔危険予知能力を育てる生活安全指導、交通安全指導の実施〕とある。

（４）児童の実態から

児童の実態を探るため、５月に次のような実態調査を行った。

安全（防犯）アンケート

年 組 番 （男・女）

- | | | |
|---|--------------------------|-------------|
| 1 | 登下校の時、防犯ベルを持っている。 | （ はい いいえ ） |
| 2 | 登下校の時、笛を持っている。 | （ はい いいえ ） |
| 3 | 登下校の時、GPSつき携帯を持っている。 | （ はい いいえ ） |
| 4 | 家から遊びに行く時、防犯ベルを持っていく。 | （ はい いいえ ） |
| 5 | 家から遊びに行く時、笛を持っていく。 | （ はい いいえ ） |
| 6 | 家から遊びに行く時、GPSつき携帯を持っていく。 | （ はい いいえ ） |

7 不審者は、誰でしょう？不審者と思われる人の番号をすべて書きましょう。

①

②

③

④



8 不審者の現れやすい場所は、どんな場所でしょう。

駅前

人の多い 見えやすい 見えにくい にぎやかな きけんな 入りやすい
入りにくい 明るい 車の多い 車の少ない さかのある たいらな

9 知らない人が「こいぬが、いなくなってこまっています。いっしょにさがして？」といいました。あなたなら、どうする？

- ① こまっているので、いっしょにさがしてあげる。
- ② 「ようじがあるので」といってことわる。
- ③ ちかづいて、くわしい話を聞く。
- ④ わからない。

10 公園で遊んでいたら、知らない人に写真を撮られてしまいました。あなたなら、どうする？

- ① 何もなかったので、そのままにしている。
- ② こわいので、だまっている。
- ③ すぐに、おうちの人や学校の先生に話す。
- ④ わからない。

11 車の中から知らない人が「おかあさんが、きみのこと、さがしていたよ。いっしょにいこう。」と声をかけてきました。あなたなら、どうする？

- ① 「ありがとう」といって、走りさる。
- ② 「ありがとう」といって、近づいて、くわしい話を教えてもらう。
- ③ 「ありがとう」といって、いそいで車に乗る。
- ④ わからない。

12 道をおるいていたら、知らない人が「こんにちは」とあいさつをして、ちかづいてきました。あなたなら、どうする？

- ① むしをする。
- ② 「こんにちは」といって、あくしゅをする。
- ③ はなれたところから「こんにちは」という。

13 公園で遊んでいたら、トイレに行きたくなりました。あなたなら、どうする？

- ① 一人でも、いそいでトイレに行く。
- ② ともだちといっしょにトイレに行く。
- ③ がまんする。

14 友だちのマンションに遊びに行きました。エレベーターに乗ったら、あやしそうな人がいっしょに乗りこんできました。あなたなら、どうする？

- ① ボタンを押して、次の階でおる。
- ② 知らないふりして、背をむける。
- ③ がまんして、行きたい階まで行く。

15 友だちの家からの帰り道。暗くなってきてきました。あなたならどの道で帰る？

- ① 薄暗くて、人が少ないけれども近道。
- ② 遠回りだけれど、人がたくさんいる明るい道。
- ③ 家が少なく、空き地が多い近道。

この結果、登下校時に防犯ベルか呼び笛かGPS携帯のいずれかを持っている児童が全体の人数の50%、家から遊びに出かける時に防犯ベルか呼び笛かGPS携帯のいずれかを持っている児童が全体の人数の33%であることがわかった。また、質問に対する正答率が次のとおりである。(問9から問15までの正答は、いろいろな警察署から出されている安全クイズや警備会社から出されている防犯クイズの答えを参考にしている。) 問7→7%、問8→10%、問9→72%、問10→91%、問11→81%、問12→66%、問13→55%、問14→80%、問15→81%

問9で「こまっているので、いっしょにさがしてあげる。」という答えや、問12で「『こんにちは』と言って、あくしゅをする。」という答えを児童が選んでしまうということは、素直で優しい児童であることがわかる。その反面、防犯意識が低いということが言える。「間野台小のやくそく」として、各教室には、「いかのおすし」の掲示物が貼られているが、細かい場面設定をしたとき、「いかのおすし」が直接防犯の方法として考えられていない児童もいるということがわかった。

したがって、夏休みのような長期休みに入る前に、防犯意識や実践力を高めるための安全教育を研究し、実践する必要があると言える。

3 研究で目指す児童像

- 身の回りの危険を予測したり、気づいたりできる児童
- 自ら安全な行動をとることができる児童

4 研究仮説について

仮説1 身の回りの危険を予測したり、安全な行動をとるためにどうしたらよいか考える機会を増やせば、危険を予測したり、自ら安全な行動をとれるような実践力が高まるであろう。

〈手立て〉

- ① 学区の危険な場所を知り、危険な場所に注意したり、近づかないようにしたりするため、地区児童会で話し合う。
- ② 防犯意識を常に持つておくため、「いかのおすし」を掲示する。
- ③ 車の通りの激しい場所や不審者が出没しやすい「入りやすく見えにくい」場所を確認し、危険を予測したり、安全な行動をとることができるようにするため、安全マップを活用したり、作成したりする。
- ④ 様々な場面で不審者と出会ったり、声かけをされた時に、危険を予測したり、「いかのおすし」と結び付けて適切な安全な行動をとったりすることができるようにするため、「こんなとき、どうする」カードや「こんなとき、どうする」クイズを作成し、それを活用したり、「いかのおすし」の資料を配付したり、映像資料を活用したりして学級活動の時間に安全学習を行う。

仮説2 警察と連携しながら、体験型の防犯教育をすれば、正しい安全な行動を学び、実践力が高まるであろう。

〈手立て〉

- ① 校内や校外で不審者に対して正しく安全な行動をとることができるようにするため、警察官を講師に招き、不審者侵入避難訓練や誘拐防止教室を実施する。

5 学校の日常的な防犯指導

- ・毎週、木曜日は、原則として集団下校を行う。
- ・決められた通学路を通って登下校をし、できるだけ複数で行動する。
- ・人目の少ないところでは、一人では遊ばない。
- ・登校中、忘れ物に気付いても戻らない。
- ・帰宅後に出かける時も、できるだけ一人での行動は避ける。
- ・ゲームセンター等、遊技場へは、子どもだけでの出入りをしない。
- ・大型店への無目的な出入りをしない。
- ・遅くとも地域の防災無線による音楽を聞いたら帰宅する。
- ・見知らぬ人の誘いには絶対のらない。
- ・被害に遭いそうになったら、大声で助けを呼び、近くの人通りのある場所や明るい場所、子ども110番の家、店などに逃げ込む。学校に連絡する。保護者に知らせる。
- ・学区外に出る時は、子どもたちだけで出かけてはいけない。

6 研究の実際

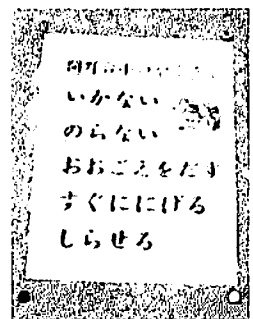
仮説1 身の回りの危険を予測したり、安全な行動をとるためにどうしたらよいか考える機会を増やせば、危険を予測したり、自ら安全な行動をとれるような実践力が高まるであろう。

①【学区の危険な場所を地区児童会での話し合う】

4月13日に地区児童会を行い、通学路の確認と各地区の危険な場所（交通量が多い場所、がけなど地形的な面で危ない場所、人気が無い場所、不審者が出没しやすいとされている『人の入りやすく見えにくい』場所）の確認を行った。このことにより、通学路や自宅近くの危険な場所がわかった。

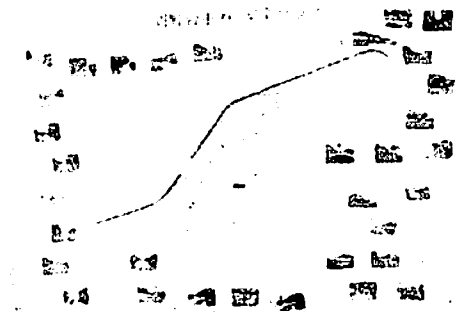
②【「いかのおすし」の掲示】

「間野台小のやくそく」として「いかのおすし」の掲示物は、各教室に掲示されている。「いか」は、「ついていかない」、「の」は、「のらない」等、言葉の意味は、ほとんどの児童が知っている。しかし、それが、どのような危険な場面があり、「いかのおすし」の約束をどう守らなければいけないのかというような、言葉と場面を直接結びつけることができていない児童が多いことが、実態調査の結果からわかった。しかしながら、今回のように学級活動の時間に安全の学習をして、危険な場面に遭遇した時の対応の仕方が、ほぼ「いかのおすし」につながるということがわかった後は、この掲示物は、安全を喚起する効力を発揮するものと思われる。



③【安全マップの活用と作成】

2階の廊下に、過去にPTAの協力のもと製作された大きな安全マップを掲示した。この安全マップは、交通安全、生活安全、両面からの危険な場所と思われる写真が理由とともに地図に貼られている。この安全マップは、生活科や社会科の学習にも利用されたりもするが、交通安全の学習、生活安全の学習に利用されている。児童の安全マップ作りの参考にもされている。今年度の安全マップは、秋に第4学年、第5学年の児童が総合的な学習の時間に作成する予定である。安全マップを作成する際に、危険な場所（入りやすく見えにくい場所）がどこか、十分に考えられるだろうと思われる。



④【「こんなとき、どうする」カードや「こんなとき、どうする」クイズの作成と学級活動での活用】

【映像資料の活用】【「いかのおすし」の資料配布】

「こんなとき、どうする」クイズは低学年で、「こんなとき、どうする」カードは高学年で、それぞれ活用できるように作成した。また、学習指導案を作成し、45分間でどのクラスも効果的に児童が防犯意識を身に付けることのできるようにした。クイズ、カードの他に、「いかのおすし」の資料や参考になる映像資料名、ふりかえりカードなども一緒に綴じて、ファイルを各学年に配布した。それらを活用して、6・7月の学級活動の時間に、全学級で防犯教育（安全学習）を展開した。学習の導入では、

我孫子市の事件や佐倉市の不審者情報、不審者クイズなどを行った。次に、「いかのおすし」の資料を参考に「こんなとき、どうする」カードや「こんなとき、どうする」クイズで不審者に遭った時の対応の仕方を児童が話し合い、ロールプレイング（役割演技）をしながら発表した。最後に、映像を見て振り返り、まとめを行った。児童は大変意欲的に取り組んでおり、学習の中で、「声かけをされた時、どう対応すれば、相手に失礼なく、興奮させることもなく上手に断れるか。」ということを試行錯誤して考えているようだった。 《別冊資料参照》

《学習後の児童の声》

- ・出かける時、遊ぶ時は、なるべく一人にならないようにすることが大事だとわかった。
- ・不審者が子どもを誘うパターンがいくつもあることが、わかった。
- ・きけんをさけるための方法は、「いかのおすし」につながっていることが、わかった。
- ・いざという時は、近くの店や子ども110番の家に助けを求めるとよいことがわかった。
- ・あやしい車には、近づかない、進行方向とは反対ににげることがよいとわかった。
- ・普段から、「いかのおすし」は、心がけなければいけないと思った。

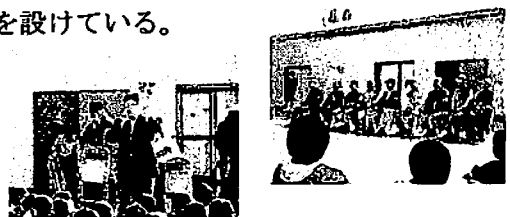
仮説2 警察と連携しながら、体験型の防犯教育をすれば、正しい安全な行動を学び、実践力が高まるであろう。

①【不審者侵入避難訓練と誘拐防止教室の実施】

本校では、不審者侵入避難訓練を平成25年度から実施している。佐倉警察署の協力のもと、犯人役を警察の方にさせていただき、児童は避難の仕方を、教職員は対応の仕方を学んでいる。同時に、全学年の児童を対象に誘拐防止教室も開き、警察の方の話を聞く機会を設けている。

【H25年度】・さすまたの使い方

- ・スクールガード（防犯ボランティア）の紹介
- ・子ども110番の家の（マーク）紹介
- ・「いかのおすし」画像



【H26年度】・教職員のさすまたを使つての防犯講習

- ・「こんなときどうする」不審者に対応する仕方の話



【H27年度】・「業務連絡」という暗号を使う。

- ・教職員のさすまたを使つての防犯講習
- ・校内侵入の不審者を捕らえる際のVTR
- ・代表児童によるロールプレイング（不審者に対応する仕方）

【H28年度】・不審者侵入に対処したクラスの先生の話

- ・放送が聞こえたら、余裕のあるクラスは、ドアを閉めて鍵をロック
- ・「こんなときどうする」「不審者とは」「大きな声を出す練習」

[今年度は、10月に実施予定]

7 成果 (○) と課題 (●)

<仮説1について>

○この安全学習を終えた後、夏休み前にもう一度、5月に行った安全(防犯)アンケートを行った。すると、次のような結果となった。

アンケート問題番号	7	8	9	10	11	12	13	14	15
5月の正答率(%)	7	10	72	91	81	66	55	80	81
7月の正答率(%)	49	39	82	93	87	87	79	87	87

防犯アンケート問題の正答率が、全てにおいて上昇した。このことから、防犯意識を高め、安全な行動をとれるような実践力が高まったことがわかった。

- 声をかけられた時の対応の仕方、「どんな対応の仕方がよいのか」「なぜ、そう考えたのか」等を児童が真剣に考えて話し合いを行ったことから、危険を予測し、安全な行動を考えるような防犯意識を高めることができた。
- 安全学習時にロールプレイング(役割演技)を取り入れたことで、実際の距離感や対応の仕方を体感することができ、実践力を高められた。
- 映像資料を児童に見せることで、実際の声かけの場面がわかった。
- 「いかのおすし」の合言葉と不審者への対応の仕方がつながり、普段から心がけないといけないと児童から意見が出たのは、大変よかった。
- 長期休み中は、児童が危険に遭遇する確率が高くなるので、夏休み前に、防犯教育に取り組むことができ、大変よかった。
- 登下校は、もちろんのこと、外に遊びに出かける時に、防犯ベルや笛や携帯等を持たない児童が多く、保護者の防犯意識も低いことがうかがえる。今後、防犯意識を高めていくには、どうしたらよいか、考えていかなければいけない。
- あまり、リアリティを迫りすぎる学習にすると児童に恐怖心を植え付けることになる可能性があるため、慎重に取り組まなければならない。
- 「全員が不審者の可能性がある」「普通の人と不審者の見分けがつかない」等の学習を行いすぎると人間不信になってしまいかねないので、指導のさじ加減が難しい。
- YouTubeの映像は、手軽だが、途中で終わってしまうことがあるので、可能であれば、しっかりしたDVDの方がよかった。

<仮説2について>

- 警察の方から学ぶことで話に現実味が増し、児童もより真剣に話を聞き、練習に取り組んでいた。
- 児童が役割分担を行い、ドアをロックしたり、バリケードを作ったりと手際よく動くことができた。
- いざという時、なかなか大きな声を出せないため、大きな声を出す練習は、大変効果的である。
- 校内の不審者対応の訓練は、児童にあまり恐怖感を与えるようなものではない。しかし、不審者に対峙したクラス、不審者が現れた場所の近くだったクラスでは、現実的な訓練をしているという意識が働くが、放送だけでドアをロックして、何もなかったクラスの児童には、訓練をしたという意識は、働きにくい。

- 素早い連絡体制を取るために、インターホンの設置等が望まれる。
- 抜け目ない防犯体制を取るのが難しい。訓練はしていても実際の対応も難しいと思われる。PTAやスクールガードの方などが学校に頻繁に出入りしてもらったり、校内巡視を頻繁に行ったりすることが、一番の防犯につながると思う。

8 最後に

今回、校内の全学年全学級が、この研究に協力してくれたので、大変感謝している。秋には、不審者侵入避難訓練や安全マップづくりが控えているので、それらを通して、さらに、危険を予測して、安全な行動が取れるような実践力を養っていききたい。安全（防犯）の学習は、長期休み前はもちろんのこと、年間通して、継続的に行われるべきものである。したがって、児童に対する防犯指導は、今後も実施して「いかのおすし」の形骸化を避けていきたい。防犯は、学校だけでなく、保護者や地域の協力なしには成り立っていかないので、今後も防犯体制の協力をお願いしていきたい。

〈参考文献〉

- ・『学校における防犯教育指導資料』神奈川県教育委員会
- ・『子ども防犯テキスト』警察庁
- ・『家族で考える子ども安全ブック』KDDI株式会社
- ・『あんぜんブック2006』セコム株式会社